

# 教養講座 地元学を考える

第百五十五回「地元学を考える」  
(二〇一六年十一月十九日開催)

## 「聖徳太子の 未来記予言」

講師 三神 たけるさん

正直、解りませんでした

『聖徳太子の未来期予言』というタイトルにひかれて十一月十九日、お話を聴きにシャロームに出掛けました。講師は三神たける先生。

私の予想としては以前の一万円札に描いてある聖徳太子を思い浮かべ、また「一度に十人の話を聞き分けられたとか」「冠位十二階や十七条の憲法を制定した」という話から、聖徳太子の超人的な才能がどうして生まれたのかなど、数々の面白いエピソードを期待していた。

ところが常識的な頭では考えられないアツと驚く話が次々と展開されていった。資料によれば、三神先生は『ムー』の編集長をしているというので納得がいった。まさにムー的な話が延々と続き、聖徳太子が何処へ行ったか解らないまま、時間だけがどんどんと過ぎていった。



(ややまひろし)

世界のあんなあ、と感じ、頭がウニになった状態のまま、疲れ果てて帰ってきた。

天皇の話やキリストの名前が飛び出し、奇想天外な話が延々と続くので、私の頭は混乱の極みとなり、どうもまとめようがない。天皇一家が近くに京都市に移り住む、ということだけが頭に残っている。それにしても関連性のない話が飛び出してくるので記憶に残らなかったのは残念である。思い出そうとしても頭が悪いせいかもしれないので困っている。

まったく常識では判断できない話が三神先生の頭の中には詰まっているみたいだ。懸命に理解しようとしたが、私の脳はついていけなかった。私も支離滅裂な話をして人々を煙に巻いているが、私なりのオチをつけ、なるほどな、と思っただけけるようには、しているつもりだ。

三神先生のネタ外れのお話をお聞きし、私も遅れているなあ、と感じた。歴史の中にも現代社会の中にも、我々の理解を超えた摩訶不思議な世界があるんだなあ、と感じ、頭がウニになった状態のまま、疲れ果てて帰ってきた。

第百五十五回の感想は地元学講師でおなじみのややまさんに。ピリ辛なユーモアが効いた感想文を寄稿いただきました。他の参加者アンケートの文章も抜粋して掲載いたしました。感想を寄せてくださった皆さま、ありがとうございました。

・おもしろい国に生まれたと感じましたよ。今回の聖徳太子でも、私たちが知っているエピソードは、まるでキリストで、馬小屋の前で生まれたのでうまやどの皇子。

・日本の歴史は、ある時期神話の様に曖昧にされ、私たちが話の中にすっかり伝えられていないという不思議さがあると感じていました。聖徳太子時代も「渡来人」が日本の礎づくりにかかわっていたことや、聖書の世界が日本の根幹である天皇家の歴史と共に、宮中の印や儀式の中にたくさんあり今も行われていること。万世一系ここまで続いている国は世界中日本だけ……

・日々の儀式の中に、予言されている大事なページを刻みながら進められているのかもしれない。まもなく迎える正月の初詣や食べる餅も、マツアというユダヤの文化のこと。何という国に住んでいるのか……。

・モット日本を知りたいと思いましたが、日本に使命があるとすれば……日本の使命は何？



第百五十六回「地元学を考える」  
(二〇一六年十二月十日開催)

## 「命と向き合い 生きる」

講師 奥田 知志さん

一言でいうと、目からウロコでした。そして、もしかしたら他人事ではなく、誰しもがかかわる問題ではないかと感じた時、悲しみと怖さを感じました。

私は今回拝聴させて頂いて、私自身が正にバブル真っ只中で青春時代を過ごしていた者です。当時、東京に住んでいた私は友人と食事や飲み会で新宿の地下通路を何度となく通り、多くの「浮浪者」と呼ばれていた人々を横目に見て無関心に通り過ぎていました。

正直、臭い、汚い、こわい……と感じていました。ある日、マザーテレサの本がインタビュで「幸せの反対は何かかわりますか？」という問いに

「無関心です」とお答えになりました。とつても、とつても心が痛く、苦しくなりました。

また、千代さんのお話を聞いた時、私にもチヨさんがいて、もう二十三年近く一緒に仕事をしています。色々ありましたが、何度となく、会社を締めようと思ったか数知れませんが、今回もそんな中、講演を聞く機会を与えられました。ホームレス、ハウスレス、

今まで他人事と思っていた事が、私が会社を辞めてしまつたら、私自身が一人の人をホームレスにしてしまったかもしれない。

私は悩み苦しんできました。私が、講演を聞かせていただき、一息ついて、イエス様は「七の七倍赦しなさい」と仰つてくださり、大竹代表も「イエスは愛のお方です。けんかしないで仲良く」と優しくアドバイスしてくださいました。

そしてこの講演を聞かせて頂き、間違つた判断によって一人の人の人生を変えてしまったかも知れないと知った時、この問題は他人事ではなく、身近にあるものとしてショックを受けました。「我慢、忍耐、努力」こんな言葉の時代に生きてきた私は、家庭内離婚、ひきこもり、会話レス、など、今はどこにでもあるような環境に思っています。

核社会となった今、携帯、スマホでより個立化(孤立化)

が進んでいるように感じます。とても危機感を感じました。そして今の私に何ができるんだらう。聖書に「みことばを実行する人になりなさい」(ヤコブ一・二二)とありました。私はまだまだ知らない事だらけです。身近な人々を愛し、決して怒らず、全てを赦し、喜び感謝、祈りを忘れず、生きていきたいと思いません。自分では何もできません。全ては祈りと思っています。

今回の奥田知志様の「命と向き合い生きる」講演を拝聴させて頂いた事に感謝致します。ありがとうございました。

耳を開いて「助けて！」の声を聞き留め、受け留めていきたいです。(石井貴子)

第百五十六回地元学はひまわり感謝祭の基調講演と同時開催となりました。心に沁み入るような感想を寄せてくださった石井さん、ありがとうございました。

Merry Christmas

